

初心者入門ワークショップ 韓国の楽器「チャンゴ」「ケンガリ」



チャンゴ

ケンガリ

サムルノリ・韓国打楽器奏者のリ・チャンソプさんをお迎えし、韓国の伝統楽器である「チャンゴ」と「ケンガリ」のワークショップを開催しました。

3月2日(木)は「チャンゴ」のワークショップを行いました。チャンゴは木をくりぬいた砂時計型の胴の両面に、馬や牛の動物の皮が張られている太鼓です。右手にヨルチュ、左手にクングルチュというバチを持って演奏します。叩く音を「ドン」「タ」「クン」と表現し、楽譜を使わずに先生が言う音を叩いていきました。バチの使い方に慣れるまでが大変ですが、初心者でも演奏しやすい「クッコリ」「フィモリ」というリズムを練習し、朝鮮民謡の「アリラン」を歌いながら演奏できるまで上達しました。最後に「サムルノリ」という韓国の代表的なアンサンブルも体験しました。サムルノリは「4つの遊び」という意味で、4種の打楽器が使われます。使用する楽器は「チン・プク・チャンゴ・ケンガリ」で、「風・雲・雨・雷」や、「年・季節・月・秒」を象徴しています。自然界や時間をそれぞれの楽器が表現しているのです。楽器を単に鳴らすのではなく、「意味を打つ」という考え方もサムルノリの魅力です。チャンゴ以外の楽器と一緒に演奏すると音の雰囲気が変わり、韓国の音楽を一層奥深く感じられました。

翌日、3月3日(金)は「ケンガリ」のワークショップを行いました。ケンガリは、金属でできた小さな銅鑼で、バチで叩いて鳴らします。鉄が使われている楽器は神と交信する時によく使われるそうで、五穀豊穡などお祭りの時にも演奏されます。サムルノリの中でケンガリを演奏する人は曲の始まりや終わりの合図をだしたり、速さを決めたりする指揮者のような役割を担っています。

ケンガリは左手の親指と人差し指に楽器のふちを引っ掛けるように持ち、胸の高さに構えます。残りの3本の指で楽器の響きを操って演奏します。叩く位置や響きを操作することでずいぶん音が変わり、50000個ほどの音が出るともいわれています。先生の演奏をまねしながらリズムを覚えていき、強弱を付けたり、音色を変えたりしながら演奏できました。

ケンガリのワークショップは今回が初めての開催でしたが、楽しく韓国の文化を学ぶことができました。

演奏入門 初心者ワークショップ「チャンゴ」
 日 時：平成29年3月2日(木) 19:00～21:30
 参加者：13人

演奏入門 初心者ワークショップ「ケンガリ」
 日 時：平成29年3月3日(金) 19:00～21:00
 参加者：6人

会 場：楽器博物館展示室
 講 師：リ・チャンソプ (サムルノリ・韓国打楽器奏者)

楽器の中の聖と俗 「鳥と人間の音楽交流」(全4回)



第1回「鳥は神さまか、友だちか」

1月から2月にかけて、講座「楽器の中の聖と俗」(全4回)を開催しました。講師は大阪音楽大学名誉教授で、当館名誉館長でもある西岡信雄先生です。この講座は毎年人気を博している講座で、今回は「鳥と人間の音楽交流」をテーマにお話していただきました。

鳥は私たち人間の身近にいる動物の中では、最も付き合いが長いと言えます。なぜなら、現人類の祖先である「猿人」の誕生よりもはるか前に、現生鳥類の祖先は誕生していたからです。鳥と人間の共通点は、二足歩行や、発声の多様性などが挙げられますが、鳥は人間にはできない“飛行”を得意とすることなど、相違点もちろんあります。共通点と相違点が組み合わさり、両者には様々な交流の歴史が誕生しました。

第1、2回の講座は、鳥が人間に影響を与えてきたお話を軸に進められました。その中でも特に、第1回は“聖”なる視点から鳥と人間の交流を辿りました。古代エジプトの天空と太陽の神・ホルスをはじめとした「鳥の神格化」は、太古から世界各地で見られるものです。「鳥の神格化」は、大空を飛ぶ鳥の姿や渡り鳥が翌年までには必ず戻ってくることへの畏敬にはじまり、ここから神の化身や神の使者、神の乗り物などと捉えるようになり生まれたと考えられます。そして、人間が鳥を神格化するだけでなく、また別の関わりも多くあります。たとえば通信手段や愛玩動物としても、鳥が人間社会に貢献するという場面は多々あります。その一方で、近年は鳥による農業被害や伝染病の蔓延と人間による森林伐採や地球の砂漠化・温暖化などに起因する絶滅危惧というような問題もあるのです。

また、鳥と人間との共通点に「ものまね好き」「おしゃべり好き」「遊び好き」があります。鳥は言葉を親から

子に伝えるようにして鳴き方を覚えることから模倣能力(ものまね能力)が高いことがわかります。さらに、模倣能力が高い鳥の中でも特にオーストラリアの固有種であるコトドリは、牛の声や、チェーンソーの音などまでそっくりにまねをすることができるそうです。まねができるということは、それだけ耳も良くて音域も広いということですね。

また、鳥の鳴き声が人間の言葉に聞こえる「聴きなし」というものがあります。たとえばホオジロの鳴き声は「源平つつじ、白つつじ」、センダイムシクイの鳴き声は「焼酎一杯グイー」と言っているように聞こえるのです。鳥が実際にこんな日本語を話しているわけではありませんが、西岡先生の声でこの聴きなしを録音したものを倍速で再生すると、不思議と鳥の声に聞こえてしまって、お客様からの笑みも漏れました。因みにカッコウやホトギスなど、「聴きなし」がそのまま名前になった鳥もいます。

第2、4回には演奏者の方々もお迎えし、鳥にまつわる曲を演奏していただきました。第2回では浜松市内の小学6年生の青木佳那さんによる電子チェンバロの演奏で、ダカン作曲「カッコウ」が披露され、素晴らしい演奏を聴かせてくださいました。第4回では9名の奏者をお迎えし、ファン・エイク作曲「ナイチンゲール」、ヴィヴァルディ作曲「ごしきひわ」や、メシアン作曲「ピアノ独奏曲集鳥のカatalogから第2番 キガシラコウライウグイス」などが演奏され、様々な編成で幅広い時代の曲を聴きました。楽曲の中に描かれた鳥声を愉しみ、鳥声に魅せられた作曲者達の多彩な楽曲を知ることができました。

人間は鳥の美しい姿や多種多様なさえずりに心惹かれてきました。この感覚は、太古から現在まで続いているものです。鳥のさえずりだけでなく、姿や踊りについても幾種類もの写真や映像も使いながらお話して下さいました。鳥と人間の関係を音楽、言語、文化、環境、歴史など多方面からみることができ、大変興味深い講座となりました。



第3回「鳥の音楽教室」



第2回「鳥を真似て、歌い、踊る」での電子チェンバロの演奏
青木佳那(小学6年生)



第4回「鳥声入りの音楽～中世からメシアンへ～」
村田佳生（リコーダー）、中野振一郎（チェンバロ）



第4回「鳥声入りの音楽～中世からメシアンへ～」
中野振一郎（チェンバロ）森本英希（フルート）、吉岡秀和（ヴァイオリン）、
東摩耶（ヴァイオリン）、中川敦史（ヴィオラ）、野田祐子（チェロ）、
池田源輝（コントラバス）



第4回「鳥声入りの音楽～中世からメシアンへ～」 羽賀美歩（ピアノ）

講座＜楽器の中の聖と俗＞「鳥と人間の音楽交流」

第1回 鳥は神さまか、友だちか

日時：平成29年1月16日（月）19:00～20:30

講師：西岡信雄

受講者：28人

第2回 鳥を真似て、歌い、踊る

日時：平成29年1月30日（月）19:00～20:30

講師：西岡信雄

演奏：青木佳那（電子チェンバロ）

受講者：31人

第3回 鳥の音楽教室

日時：平成29年2月13日（月）19:00～20:30

講師：西岡信雄

受講者：34人

第4回 鳥声入りの音楽～中世からメシアンへ～

日時：平成29年2月27日（月）19:00～21:00

講師：西岡信雄

演奏：中野振一郎（チェンバロ）、羽賀美歩（ピアノ）、
森本英希（フルート）、村田佳生（リコーダー）、
吉岡秀和（ヴァイオリン）、東摩耶（ヴァイオリン）、
中川敦史（ヴィオラ）、野田祐子（チェロ）、
池田源輝（コントラバス）

受講者：56人

会場：楽器博物館 展示室

音楽の広場 ミニコンサート「クラシック&エレクトリック」



日時：平成29年3月19日（日）14:00、15:30（各30分）

会場：楽器博物館 天空ホール

出演：水野まな（クラリネット/EWI）、白月柚（ピアノ）、
小池真梨（フルート/Aerophone、当館職員）

入場者：272人

3月19日（日）は、水野まなさん（クラリネット/EWI）、白月柚さん（ピアノ）、当館職員の小池真梨さん（フルート/Aerophone）によるミニコンサートを開催しました。

前半はフルート、クラリネット、ピアノを中心とした演奏で、オペラ『椿姫』より「乾杯の歌」、サン＝サーンスの「死の舞踏」や、浜松市出身の作曲家、村松崇継さんの「彼方の光」などが演奏されました。

後半はウインドシンセサイザーのEWI（イーウィ）と、Aerophone（エアロフォン）を使用し「ミュージカルメロデー」や「ディズニーメロデー」など誰もが知っている曲が演奏されました。EWI、Aerophoneはどちらも管楽器のように息を吹き込んで音を出す電子楽器です。EWIのエンドーサーである水野まなさんから楽器の解説があり、初めて見聞きする電子楽器について興味深そうに聞き入るお客様もいらっしゃいました。これらの楽器は管楽器、弦楽器など、ひとつの楽器から多種類の音色を出すことができる楽器なのです。このコンサートでは、ヴァイオリン、ハーモニカ、パンパイプ、人の声など、本来ならば多くの演奏者が集まらないと聴くことができないサウンドが2つの電子楽器によって表現されていました。

アコースティックな楽器を使った優しい調和のとれたアンサンブルと、電子楽器の様々な音色を駆使することで表現される刺激的なサウンドを楽しむことができました。

ヤマハフィーリングクラブ「掛川～浜松ピアノづくりの旅 2017」



日 時：平成 29 年 3 月 14 日（火） 13:30～15:00
 会 場：楽器博物館 展示室
 出 演：小倉貴久子

3 月 14 日（火）、「ピアノ」をテーマにしたヤマハフィーリングクラブ会員限定のプレミアムツアーが開催されました。2014 年から行われているこのツアーは今回で第 3 回目となります。毎回好評をいただき、今回も幅広い世代で、遠方からも多くの方が参加して下さいました。ヤマハの掛川工場でのピアノの製造工程を見学した後、当館のフォルテピアノを聴き比べました。演奏と解説はフォルテピアノ奏者の小倉貴久子さんです。

フォルテピアノの聴き比べでは小倉さんによる演奏と共に楽器についても解説していただきました。約 300 年前のクリストフォリのピアノの復元品からはじまり、スクエア・ピアノ（1808～1820 年、ロンドン）ブロードウッド（1802 年、ロンドン）、伝グラーフ（1819～20? 年、ウィーン）、プレイエル（1830 年、パリ）が紹介されました。その後、場所を天空ホールに移し、ワルター（1808～10 年、ウィーン）を使用したミニコンサートが行われ、モーツァルト作曲「ロンド ニ長調 K.485」、F. シューベルト作曲「即興曲 変イ短調 作品 90-4」、ベートーヴェン作曲「ピアノソナタ 嬰ハ短調 作品 27-2 《月光》」が演奏されました。

生演奏ですので、音色や音量の違いを感じることができました。熱心なお客が多く、コンサート終了後の質問コーナーではたくさんの質問が投げかけられました。博物館ならではの充実したツアーとなりました。

博物館日誌

- 2/26(日) 展示室ガイドツアー 11:00(アジア)、14:00(鍵盤楽器)
参加者：41 人
 - 2/27(月) 楽器の中の聖と俗「鳥と人間の音楽交流」第 4 回
19:00 楽器博物館展示室 講師：西岡信雄
演奏：中野振一郎、羽賀美歩、森本英希、村田佳生、
吉岡秀和、東摩耶、中川敦史、野田祐子、池田源輝
参加者：56 人
 - 3/2(木) 演奏入門 初心者ワークショップ「チャンゴ」
19:00 楽器博物館展示室
講師：リ・チャンソプ 参加者：13 人
 - 3/3(金) 演奏入門 初心者ワークショップ「ケンガリ」
19:00 楽器博物館展示室
講師：リ・チャンソプ 参加者：6 人
 - 3/5(日) 展示室ガイドツアー 11:00、14:00(鍵盤楽器)
参加者：56 人
 - 3/12(日) 展示室ガイドツアー 11:00、14:00(鍵盤楽器)
参加者：57 人
 - 3/19(日) 展示室ガイドツアー 11:00(アジア) 参加者：22 人
 - 3/19(日) シリーズ音楽の広場「クラシック&エレクトリック」
14:00、15:30 天空ホール
出演：水野まな(EWI/クラリネット)、白月柚(ピアノ)、
小池真梨(Aerophone/フルート、当館職員)、
入場者：272 人
- ♪ギャラリートーク
 (職員が毎日数回、展示品をひとつ選んで 10 分間ほど解説)
 2 月 計 94 回 参加者：1040 人
 3 月 計 107 回 参加者：1925 人

これからの催し物

- 展示室ガイドツアー 毎日曜日 展示品の解説
※催し物により変更もあります
- ギャラリートーク 毎日数回 展示品の解説を行います
- レクチャーコンサート
5/3(水)「美しい水の祭典～オンド・マルトノ六重奏のサウンドスケープ～」
14:00 アクトシティ浜松コンgressセンター 4 階 41 会議室
(※会場が変更になりました)
出演：ハラダタカシ、久保智美、坪内浩文、市橋若菜、大矢素子、
田村玲彦
7/6(木)「熱狂のホローポ～南米コロンビア平原の歌・楽器・ダンス～」 19:00 天空ホール
出演：シマロン(コロンビアより来日 7 人編成)
- ミニコンサート 天空ホール
5/3(水)「バンジョー&アコーディオン」 14:00、15:30
出演：稲川友則(バンジョー)、柴田貴子(アコーディオン)
5/4(木)「ハーモニカ」 11:00、14:30
出演：宮田薫(ハーモニカ)、金山智彦(ピアノ)
5/4(木)「リードオルガン」 13:30 15:30
出演：鈴木開(オルガン)、名倉亜矢子(ソプラノ)
5/5(金)「テルミン&マトリョミン」 14:00、15:30
出演：竹内正実、マトリョミンアンサンブル「Marble&Da」
5/6(土)「 Hammondオルガン」 14:00、15:30
出演：浅野仁

浜松市楽器博物館だより

平成 29 年 3 月 31 日発行 No. 117 編集 浜松市楽器博物館 〒430-7790 浜松市中区中央 3-9-1
 TEL 053-451-1128 FAX 053-451-1129 URL <http://www.gakkihaku.jp/>